

久宝寺^じ ない ちょう 寺内町新聞

Vol.03



燈路まつり開催!

第7回燈路まつりを9月6日の開催に向け、役員一同、準備万端取り組んでまいりました。ところが朝から生憎の雨模様、その後の天気予報も芳しくなく、とうとう1時過ぎには「八尾河内音頭まつり」が中止・との知らせがあり、検討の結果「燈路まつり実行本部」においても第7回にして初めての中止の決断やむなきに至った次第です。その後、順延された12日は好天に恵まれ、臨時のイベントも皆さんのご協力で開催、3500名ものご来場を賜りました。お手伝い下さった皆様には、6日、12日と両日ご参加いただいたことに心より感謝申し上げます。

第7回燈路まつりを終えて

田中 良明

予定していた9月6日(日)は雨のため12日に延期。

それぞれ予定もあつたはず。それでも、朝から地域の方々の熱意によって開始1時間前には準備もほぼ完了。まさしく久宝寺の地域力とでもいうのでしょうか、本当に頭が下がる思いでした。

また、点火の頃には手を引かれた子どもたちが、自分の描いた燈籠を自慢げに指さしていました。来観者も予想していたより多く安堵しました。企画の段階から協力をいただいた地域の方々、ライトアップさせて



まちなみセンターに飾られた燈籠

いただいたお家の方や駐車場や駐輪場として提供していただいた方々、地域の保育所、幼稚園、小学校、中学校の皆さまに心から感謝申し上げます。

終わりになりましたが、田中誠太市長はじめ、府議会議員、市議会議員の先生方にご来場いただいたこと、心からお礼申し上げます。

ちぎり絵燈籠、

手をあわす大切さ



顕証寺本堂にはちぎり絵の燈籠が

顕証寺では、雨による大きなプ

ログラムの変更の中、「ライブ(光

雲閣ホール)」「舞楽法会」を開催

していただきました。また、順延日には「ライブ(山門)」「河内音頭」、出店の一部も駆けつけてくださいました。

本堂にはこの夏、お寺の子ども会合宿で作成したおしゃかさまのご生涯を描いた巨大ちぎり絵燈籠をかざりました。燈籠の前で合掌され、楽しそうに寺内町に繰り出していかれた親子の姿がとても印象的でした。このともしびは、寺内町五百年のいろいろなご縁があつて今のわたしたちを照らしてくれているあかりだったと気づかせていただき、なにか心あたたまる燈路まつりでした。



順延日の境内の様子



許麻神社での 神楽舞と雅楽

雨で中止になった燈路まつり、許麻神社並びに総代会のご厚意で、予定を変更して12日に舞台を組み立て、許麻神社での神楽舞と雅楽を実施していただき、深く感謝申し上げます。近藤理事「許麻神社での事前の開催の広報も十分でなかったにもかか



さくら会の神楽舞

わらず、大勢の参拝者に集まっていたいただき、巫女さんの舞と神楽演奏にしばし幽玄の世界に触れてもらえたのではないでしょうか。太鼓台や六角御輿のライトアップは、一層迫力ある姿を間近に見ることが出来ました。「また絵カップ燈籠の中から自分のものを探す子どもさんと家族が楽しそうにされていました。」



雅桜会の雅楽演奏

ライトアップに 近大生が挑戦!

景観工学研究室(近畿大学)の島崎さんから現役生のみなさんで古いまちなみのお宅や竹照明など様々な試みがされた今回。島崎さんは後日、「有意義な企画に参加させていただき、誠にありがとうございます。卒業してもまたこのまち・久宝寺に訪れたいと感じています。」とコメントをいただきました。



近大生によるライトアップ作品



「燈路まつりと

同時開催できず残念

ぜひ来年も

9月6日の燈路まつり当日は、あいにくの雨。燈路まつり自体が順延となり、イベントのみの開催で、人も少なく、念佛寺でのイベントに初参加いただいた「若手アーティスト支援活動団体『108奏』」さんにとっても残念な結果となりました。108奏代表の鄭重成さんからは、「今回雨天だった為、燈路まつりと同時に開催ができなくて残念でしたが、是非とも来年も実施したいと思っています」「各箇所で連動した『スタンプラリーや謎解き』などのコンテンツが必要かと思いましたが」などのコメントをいただき、今後の燈路まつりの進展へ期待を寄せてい



念佛寺の様子

ただきました。また順延の日の12日には念佛寺で、来訪者の方にガラス瓶に入ったロウソクに火をつけて、自由に置いてもらい、皆でアートを作るというイベントが行われ、50人以上の方が訪れました。

雨天で予定が変更に！

おでんのコーナーでは、仕込みが出来上がっていたので、販売は中止しましたが、関係者に呼びかけて買っていたいただきました。担当者は「来年は燈路まつりの来訪者の方々に『美味しいと評判』のおでんを買っていただきたいと思います。」と早くも来年の抱負を語りました。



まちなみセンターでおでん販売



紬さんの回転焼き



評判のおでん、すぐに売り切れます

かき氷のコーナーは中止になり、順延日に「指定障害福祉サービスマニファクトリー」に急ぎよ回転焼きと手作り品の販売をしていただきました。大盛況で、焼くのが間に合わないようでした。



「^{みち}路^{あかり}いっばいの燈が照らす

笑顔と笑顔」

久宝寺小学校PTA会長

高砂 美香代

みんなの 声

直径十センチ、高さ二十センチ程の円柱状の真っ白なランプに、児童ひとりひとりが思い思いの絵を描いていました。五百年の歴史を持つ久宝寺寺内町。先人たちの足跡の残つていそうな石畳の通りに綺麗にならべました。そこに手分けして蝋燭を入れ、顕証寺さんの鐘を合図に一齐に灯をともしました。児童の皆さんの大切な作品です。「大切に守つてあげる！」そんな気持ちでした。七個並べたら、大人たちの描いた大きな木製燈籠を置きます。木製燈籠は、あたかも、小さなランプたちを守り照らす役目の様に見えました。私たちは、灯が消えないようにじつと見守ります。消えたら即座に蝋燭を入れ替えます。通りでは、自転車は引いて通つて下さいませ。にこにこ笑顔で、可愛いランプを眺めながら。子どもさんやお孫さんのランプを見つげにこれ、カメラ片手に一つずつのぞき込む日は真剣です。やっとみつけたランプは、お子さんやお孫さんの様に撫でておられます。もちろん、満面の笑顔です。そして、なぜかしら、私達にお礼をおじやつて下さいます。私達も笑顔で返します。心が、ほんわか温かい夜でした。

小さな燈(あかり)が照らす皆さんの笑顔が、路(みち)いっばいに咲いていました。

「心つながるわがまち久宝寺」の歴史ある寺内町。路(みち)いっばいの燈(あかり)が照らす笑顔と笑顔。これからも、自分達ができる事を探して、皆さんと一緒に守り続けたいと思いました。

多くのボランティアの方がお手伝いに加されました。

去年までは、お手伝いは地域団体に所属している方がほとんどでしたが、今年是一般のボランティアの方が増えました。

初めて参加された方は、「最初は上手く並べられるか不安でしたが、班長さんに教えていただきスムーズに出来ました。しかし、子どもたちが走り回って燈籠を倒したり、持ち上げたりして口ウソクをこぼして大変



ボランティア参加の方々と

なこともありました。「これから、他の地域行事にも積極的に参加していきたいと思えます。」と意欲を語られました。

ようこそ久宝寺へ!

~Welcome to Kyuhôji~



杉本智也さん(左) 明日花ちゃん(中) 有紀子さん(右)

最近、この久宝寺のまちに越されてきた方々へインタビューするコーナー。
今回は杉本有紀子さんにお伺いしました。

広報部…よろしくお願ひいたします。
杉本さん…こちらこそ、よろしくお願ひいたします。

広報部…いつ頃このまちに越されてきましたか？

杉本さん…今年の2月です。夫と私と娘の三人で、仲良く暮らしています。

広報部…具体的な理由などはありませんか？

杉本さん…元々私が南久宝寺に住んでおり、結婚を期に一旦久宝寺を離れましたが、娘が小学校入学を控え、両親、姉夫婦も南久宝寺に住んでいるので戻ってきました。姉夫婦のところは久中・久小へ通う姪っこたちが居るので、娘のためにも安心かなと思い、越してきました。

広報部…では、実際住まれてみての感想などを、お聞かせいただけますか？

杉本さん…私にとっては懐かしく、家族にとつてはとても静かなまちなので、おだやかな時間を過ごせています。

学校へも通いやすく、味のあるまちなみがホッとしますね。

広報部…やはりそう思われますか。続いて、このまちの良いと思うところがあれば、教えていただけますか？
杉本さん…都会や仕事から帰ってきた時に寺内町から見える夕焼けがとてもきれいで癒されます。

静かで落ち着いたまちなみが本当に大好きです。

広報部…では最後に将来このまちが、こうなったらいいなあ・・・と思うことはあるでしょうか？

杉本さん…「燈路まつり」のように春夏秋冬イベントやお祭りがあれば、もっと沢山の方が久宝寺を知ってもらうチャンスになると思いますし、私たちも嬉しいです。

広報部…本日は大変ありがとうございました。

杉本さん…ありがとうございました。

「ようこそ久宝寺へ！」インタビューを受けて募集中！詳細は12ページ。

大好評！満員御礼

久宝寺寺内町まちづくり推進協議会・NPO法人

寺内町久宝寺主催のイベントを開催しました

講演会 「河内木綿と久小の思い出」

NPO法人河内木綿藍染保存会理事長 村西 徳子 氏



講演 村西徳子先生

「河内木綿と久小の思い出」が

問いかけるもの

久宝寺寺内町を紹介するのに欠かすことが出来ない一つに「河内木綿の歴史」があります。久宝寺寺内町まちづくり推進協議会では、久宝寺小学校の生徒さんに綿の苗を提供して花を咲かせ、綿から糸へ、糸から布へと試みています。



寺内町で育てている綿

なかでも、久宝寺木綿がもたらした文化と歴史を知ってもらいたいと、この道に精通なさっている村西徳子先生に講演をお願いしました。先生は、快くお受けいただき、その上、題目に「久小の思い出」を追加してくださいとおっしゃってくださいました。先生の寺内町と久小に熱い想いを寄せられるのはご自身の河内木綿の文様と藍染に寄せられるのと同じくらの思いを感じました。先生の熱意は子どもたちの環境情操教育にどれほど有意義であるか。「花咲かせ、夢咲かせ、八尾綿の花」この言葉を胸に伝統工芸の河内木綿をなお一層広めていきたいと思っています。

(富山幹事)

徳洲会グループ

特別養護老人ホーム

久宝寺 愛の郷

- デイサービス
- ショートステイ

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺3丁目15番38号

TEL: 072-924-5660

FAX: 072-924-5666

HP: <http://www.kyuhoji-ainosato.jp>

サービス付き高齢者向け住宅

特定施設入居者生活介護

やおもり

八尾の杜

(全室個室・24時間対応・終身型)

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺3丁目15番39号

TEL: 072-968-8175

FAX: 072-968-8176

HP: <https://yaonomori-kaigo.jp/>



スイーツの工房が 寺内町にオープン

今年7月、久宝寺寺内町にクッキーやシフォンケーキ、デコレーションケーキに至るまで、あらゆるスイーツを注文に応じて作ってくれる工房がオープンしました。その名も「atelier Oeuf」(アトリエウフ)。

いわゆるケーキ屋さんとは違い、飲食店への卸しや、さまざまなおイベントへの出店という形を中心に



寺内町の風情あふれる町家を活用した工房のたたずまい

このコーナーでは、おもに久宝寺で活躍する人を中心に、地域を元気にしてくれるお店などを紹介します。
題して「久宝人」を守る・創る・育てる」
第2回は、今年7月、久宝寺寺内町にスイーツの工房「atelier Oeuf」(アトリエウフ)をオープンした多葉早希さん(たばさき 早希さん)のご紹介です。

しているので、工房を訪ねたときに不在ということも……。個別に注文を受けて作ってくれる「オーダースイーツ」の工房なのです。

バイタリティーあふれる 若きパティシエ



多葉 早希さん

工房のオーナーパティシエとして奮闘するのは久宝寺寺内町で生まれ育った、根っからの久宝人、多葉早希さん。

専門学校を卒業後、八尾の有名なケーキ店などで腕を磨き、大阪市内のカフェでは、チーフパティシエとして活躍してこられた実力の持ち主です。

大学生のころ、少年がヒーローになりたいというのと同じような感覚で、ケーキ屋さんになりたいと思っていましたが、「なったらええやん!」という知人のひとこと



作り手の気持ちに味が影響すると語る多葉さん。一つひとつ心を込めて

に背中を押されて、この道を選びました。専門学校で一緒に学んだ40人中、今でも仕事として続けているのは、1割ほどだそうです。

周囲から、この道の厳しさを聞かされていた多葉さんは、だからこそ途中で絶対投げ出さないと決め、どんな状況にも負けずに続けてきました。

「最初の5年は意地でしたね。そこからようやく楽しくなりました」
芯の強さと持ち前の明るさで、苦勞もエネルギーに変えてしまう多葉さんの口癖は「大丈夫!」。
大阪市内へもクロスバイクで廻爽と配達に走ります。



工房の名前

「Oeuf【ウフ】」の由来は?

多葉さんのフルネームは多葉早希(たばさき)さん。その音が「てばさき(手羽先)」と聞こえることから、「手羽ちゃん」と呼ばれることが多いそうです。しかし、スイーツの工房の名前が「手羽ちゃん」というわけにもいかず、そこから鳥になんだ名前を考えました。
たまご料理が好きで、言葉の響きがかわいいということもあり、フランス語でたまごを意味する「Oeuf【ウフ】」と名づけました。
たまごからかえって鳥になれたらという願いも込められています。

寺内町の新名所に!

久宝寺についてたずねると、「犬の散歩の光景とか見ると安心しますね。『雨降ってきたで!』って近所のおじいちゃんが教えてくれたりとか(笑)」と語り、「将来、この工房を、まち歩きに訪れた方の休憩所として、また町家ジャズの開催場所として、使っていただけのようになれば」と夢がふくらみます。お菓子づくりからまちづくりまで。これからが楽しみです。



バリエーション豊かなクッキーやパウンドケーキなどの焼き菓子は手土産としても最適



フルーツたっぷりのパステルケーキ。種類や大きさなど、お好みのスイーツをオーダーメイドで

オーダースイーツ

アトリエ ウフ

〒581-0072
大阪府八尾市久宝寺3-8-25
TEL: 090-1028-1298
E-Mail: atelier-oeuf@i.softbank.jp

其の三

シリーズ

久宝寺

歴史浪漫を訪ねて

長宗我部盛親物見の松

富山 喬三

久宝寺小学校の西側、その昔、今口の木戸門があったところに今口地蔵尊が祀られている。そのそばに「長宗我部盛親物見の松」と彫った石標が建っている。当時、長瀬川は旧大和川の本流で川幅200M近くあり、この辺りは大坂夏の陣の「八尾・若江の戦い」の場所である。ときは慶長20年(1615年)5月6日、霧の立ち込める朝、川の東側には藤堂高虎が軍を牽き、久宝寺側には盛親の軍が待機している。戦の勝ち負けは別としてこの盛親を見るに「悲運の武将」という言葉がこれほど似つかわしい大名はいない。「関ヶ原の戦い」では徳川方につくことになっていたのに何らかの手違いで豊臣方につかざるを得なくなり、その結果、土佐22万石を没収され『牢人大名』と呼ばれる身に転落した。豊臣秀頼との約束で、「大坂方の勝利の暁には土佐一国を拝領する」と、お家再興をかけての「夏の陣の戦い」に何としても勝たねばと思いつつも、出来るものなら東軍の藤堂高虎とは戦いたくなかっただろう。以前から高虎とは懇意の仲だったのだ。盛親が改易になった時も高虎が多数の長宗我部家臣を引きとってくれており、又幼い頃から傳人子(めのとご)として一緒に育った桑名弥次兵衛、この弥次兵衛も二千石の高録で引き取ってもらっている。その彼とも刃を交わさねばならないとは、何と非常なものか……。盛親の心中は如何ばかりであったであろうか。司馬遼太郎の「戦雲の夢」の「長瀬川の決戦」に登場する盛親と弥次兵衛の二人の会話の「やりとり」がそれを物語っている。その時の物見の松は今はない。

長瀬川も休むことなく流れている。

(長宗我部の宗については曾と書くなど諸説あり)

ふれあい館日記

くまづくり

あれこれやってます

ボランティアガイド

昨年実施された久宝寺小学校6年生の授業の一環として行われる、フィールドワークに今年もガイド依頼があり案内させていただきます。班に分かれて顕証寺・許麻神社・念佛寺・寺内町(浅野邸)・船着場などの見学を11月に行います。

久宝寺には他に見るべきところとして、「久宝寺城址」。ここは久宝寺においては重要な場所であり、領主的地位がわかるというところです。小学校の西に長宗我部盛親物見の松があり、大坂夏の陣400年祭という行事、来年の大河ドラマが真田丸と言われているので、豊臣から徳川へと代わる史跡かと思えます。藤堂高虎、井伊直孝と旧大和川

を挟んでの戦いなど、深く掘り下げて調べてください。

人物でみれば、安井一族の道頓、算哲、春海または本願寺蓮如上人など、興味深い人物が沢山おられます。「この久宝寺を今一度振り返ってみるのもおもしろいのでは」、またわがまちを歩いてみてはいかがでしょう。お手伝いさせていただきます。

(谷浦理事)



長宗我部盛親 物見の松址

町家利用について

わがまち「久宝寺寺内町」は数多くの歴史的文化遺産の宝庫のまちとして昨今、市内はもとより他市からも多数の方が来訪され、ボランティアガイドの要請も多くあります。

平成5年度から平成14年度までの10年間に歴史的なまちなみにふさわしい道路や建物様々の整備が進められ、まちなみの維持・継承が行われてきました。それらが、将来消滅の危機にならないように、その第一歩として、借用した和久田家の利用を考えています。古民家の見学や学習をしたり、また久宝寺寺内町の雰囲気作り発信の場として利用し、気軽に立ち寄れる場所になるようにしたいと思えます。

今後地域住民のみならず、みなさんと維持・継承の意識の向上に努めてまいります。
(近藤理事)



和久田家(久宝寺3丁目)

水路情報

久宝寺小・中学生による地域一斉清掃が、10月24日に行われます。その中には大水路の清掃も含まれており、中学校の生徒にお手伝いしていただくことになっています。

大手町通りと米屋町通りの間に柵を設け、そこに数匹の鯉が元氣よく泳いでいます。ところが、このところの大雨で3回ほど柵外に逃げましたが、なんとか元にもどすことができました。

また、まちなみセンター内の水路にホテイソウが繁殖しています。ご希望の方にお分けいたします。まちなみセンターまでご連絡ください。この水路には青や赤などの数多くのメダカが鯉と仲良く泳いでいます。是非一度お立ち寄りください。一見の価値はありますよ!

(山分理事・金田理事)

行事予定

- ・10月25日(日) 9時30分～12時
「消しゴムで
干支印を作りましょう」
- ・11月28日(土)
まちなみ視察研修会

傍観の記

高垣 匡往

「NPO法人寺内町久宝寺」

久宝寺寺内町まちづくり推進協議会は設立以来、まちなみセンター事務室の一隅を拠点としながら、独自の居場所が欲しいと思っていたところ、平成24年八尾市が施設の指定管理募集の告示をしたので、「地域の応募者に譲ってなるものか」と早速応募手続きに着手したところ、応募資格に『法人取得者』とあり、役員相寄り、八尾市応募規定を勉強しながら、有識者の助言、指導を得て複雑多岐にわたる申請書を完成し、八尾市へ提出されました。後日八尾市から承認され、登記も終え八尾市へ完了報告されました。この1年、担当された役員の方々に敬意と感謝を表します。以降、法人格をもつ団体として施設維持管理、運営に当たるとともに、まちづくり事業については包括団体と認知された推進協が中心となつて地域の各種団体と協調して、「理想のまちづくり」を推し進められています。今後の成果を期し、会の隆盛を祈念します。

募集してまっせ

お問い合わせ

八尾市まちなみセンター

☎〇七二・九二四・六三七

● ◎河内木綿の糸つむぎ・来年の種まきや水やり、収穫のお手伝いいただける方(随時)

◎まちなみセンターの研修室借りられます。詳細は事務所まで

◎ほつとステーション(毎月第3日曜日)の接客及び楽器演奏・ダンス・手品など特技をお持ちの方(随時)

◎寺内町新聞で紹介させていた
だく最近(2・3年以内)久宝寺
地区に引越して来られた方
(自薦・他薦は問いません。随時)

● ◎燈路まつりのポスター制作に使用する写真・イラストを提供していただける方(随時)

● ◎寺内町のガイド要員(久宝寺寺内町に興味のある方なら経験は問いません。随時)

編集後記

今回は「燈路まつり特集号」として構成しました。地域の得意分野をお持ちの方々に提供いただいた画像やイラストを用いて作成しました。今後皆様とともに「久宝寺寺内町新聞」を作り上げていと思っています。

河内のことば

其の一

標準語講座

河内地方の方々は、方言だと意識しないで使っていることばがあるようで、今回はそのことばの標準語を学びましょう。

河内ことば

物の名前

あて

いれもん

にぬき

はじりもと

つけもん

ことば

あな山

あれへん

いいなや

えーのん

招っき山

かーり

ふーけ

めったに

やる

標準語

酒のさかな

器

ゆでたまご

流し台

つけもの

あの様に

ありません

言っではいけません

良いもの

おおきい

代わり

たくさん

決して

あげましょう

参照：八尾文化協会発行『河内ことば辞典』